

画像診断報告書

患者ID	〇〇〇〇〇-〇〇〇〇〇		
患者氏名	〇〇 〇〇 様（女）	生年月日	19XX 年 XX 月 XX 日（検査時 76 歳）
臨床診断	頸椎症		
検査目的	後頸部～肩～背部痛の原因精査		
臨床情報	X 月 X 日 XX:XX 頃から後頸部～両肩・背部の痛みが急に増強して ER 受診。 WBC4500・CRP0.6・ESR25mm/hr・ECG WNL		
部位/モダリティ	頸椎／ CT	検査日時	20XX 年 XX 月 XX 日 XX:XX
検査実施 医療機関	〇〇病院	造影剤	
依頼医/依頼科	／	病棟	
希望対応	通常		

読影担当医	〇〇 〇〇
読影所見	<p>頸椎の彎曲は軽度直線化しています。頸椎には変形性変化が認められ、骨棘形成があります。特に C5/6 レベルでは、椎間板の狭小化と骨棘形成が顕著です。このレベルで、軽度の椎間孔の狭小化がみられます。</p> <p>C5/6 レベル以外では脊柱管は比較的広く保たれており、椎間孔にも狭小化の所見はありません。</p> <p>その他、明らかな異常を指摘できません。</p> <p>＜二次読影医のコメント＞</p> <p>肩関節観察しました。変形性肩関節症あり。明らかな疼痛の原因を特定できません。</p> <p>棘下筋腱あるいは肩峰下滑液包に石灰化像がありそうです（図3）。急激な疼痛での発症であり、石灰沈着性滑液包炎や石灰沈着性腱板炎などの可能性を考える必要があります。単純写真にて石灰沈着像を確認して下さい。</p>
読影診断	<p>・C5/6 レベルで、椎間孔は両側とも軽度狭小化しています。その他のレベルでは、脊柱管ならびに椎間孔は比較的広く保たれています。</p> <p>・石灰沈着性滑液包炎、石灰沈着性腱板炎などの確認をお願いします。</p>

